

注3

大学番号：私024

[平成26年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

認可

青森中央学院大学 看護学部

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人青森田中学園

平成26年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 事務局学務課

職名・氏名 課長 ^{イシダ トモヒロ} 石田 智久

電話番号 017-728-0131

（夜間） 017-728-0131

F A X 017-738-8333

e-mail gakumu@aomoricgu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部(平成◇◇年度より変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学新設の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成26年3月20日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目 次

1	調査対象大学等の概要等	1
2	授業科目の概要	5
3	施設・設備の整備状況、経費	9
4	既設大学等の状況	10
5	教員組織の状況	11
6	留意事項に対する履行状況等	19
7	その他全般的事項	21
8	参考資料	24

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人青森田中学園

(2) 大学名

青森中央学院大学

(3) 大学の位置

〒030-0132

青森県青森市横内字神田12番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(イシダ ノリヒサ) 石田 憲久 (平成19年11月)	—	—
学長	(ハナダ カツミ) 花田 勝美 (平成24年4月)	—	—
学部長	(イチノヘ トモコ) 一戸 とも子 (平成26年4月)	—	—
学科長等	—	—	—

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成24年度に報告済の内容 → (24)

平成26年度に報告する内容 → (26)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成23年度開設の4年制の学科の場合(平成26年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象学部等の名称, 定員

調査対象学部等の名称(学位)	設置時の計画				備考
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士(看護学)	4年	80人	0人	320人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	80 (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	1.17倍	
志願者数	284 (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]		
受験者数	282 (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]		
合格者数	142 (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]		
B 入学者数	94 (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]		
入学定員超過率 B/A	1.17	-	-	-	-	-	-	-		

- (注) ・ 数字は, 平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 編入学の状況について**外数**で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[-] 94	[-] -	[-] -	[-] -	[-] -	[-] -	[-] -	[-] -	
2年次	/		[-] -	[-] -	[-] -	[-] -	[-] -	[-] -	
3年次			/		[-] -	[-] -	[-] -	[-] -	[-] -
4年次	/				[-] -	[-] -	[-] -	[-] -	[-] -
計			[-] 94	[-] -	[-] -	[-] -	[-] -	[-] -	[-] -

- (注) ・ 数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成26年度 入学者	94 人	0 人	平成26年度	0 人	0 人	なし	0 %
			平成27年度	－ 人	－ 人	－	
			平成28年度	－ 人	－ 人	－	
			平成29年度	－ 人	－ 人	－	
平成27年度 入学者	－ 人	－ 人	平成27年度	－ 人	－ 人	－	－ %
			平成28年度	－ 人	－ 人	－	
			平成29年度	－ 人	－ 人	－	
平成28年度 入学者	－ 人	－ 人	平成28年度	－ 人	－ 人	－	－ %
			平成29年度	－ 人	－ 人	－	
平成29年度 入学者	－ 人	－ 人	平成29年度	－ 人	－ 人	－	－ %
合 計	94 人	0 人					0 %

(注)・数字は、平成26年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成26年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」のように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) 授業科目表

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
コ モ ン ペ ー シ ッ ク ス	英語Ⅰ	1前	1			1							
	英語Ⅱ	1後		1		1							
	英語Ⅲ	2前		2							兼1		
	英語Ⅳ	2後		2							兼1		
	医療英語Ⅰ	1前	1			1							
	医療英語Ⅱ	1後		1		1							
	中国事情と言語	1後		1							兼1		
	韓国事情と言語	2前		1							兼1		
	ロシア事情と言語	2後		1							兼1		
	情報処理Ⅰ（情報リテラシー）	1前	2								兼1		
	情報処理Ⅱ（実務の活用法）	2前		2							兼1		
	情報処理Ⅲ（Excelの応用）	2後		2							兼1		
	調査と統計	1後	2								兼1		
人 間 探 究 科 目	自 己 の 探 究	探究の基礎	1通	2			5	8	6	0	1	共同	専任予定教員就任遅延のため（26） 専任予定教員就任辞退のため（26）
		人間と存在	1前		2							兼1	
		人間と心理	1前		2							兼1	
		人間と歴史	1後		2		1						
		人間と教育	2後		2							兼1	
		人間と宗教	2前		2							兼1	
		人間と芸術	2前		2							兼2	
		人間と文学	2後		2							兼1	
		人間と健康	1後		2							兼1	
		人間と倫理	2後		2							兼1	
		対人コミュニケーションⅠ	1前	1								兼1	
		対人コミュニケーションⅡ	1後		1							兼1	
		人間関係とリーダーシップ	3前	2								兼1	
		社 会 の 探 究	暮らしと地域	1前	2								兼1
グローバル社会と文化	1前			2		1							
暮らしと経済	1後			2							兼1		
縄文と現代	1後			2							兼1		
暮らしと法律	2前			2							兼1		
社会と福祉	2前			2							兼1		
現代社会の諸相	2後			2							兼1		
自 然 の 探 究	自然の生態系	1前		2							兼1		
	自然と生物	1前		2							兼1		
	自然と化学	1後		2							兼1		
	生命の科学	1後	2			1					兼1		
	自然とエネルギー	2前		2							兼1		
	防災と危機管理	2後		2							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	人間の心身の理解	解剖生理学Ⅰ（人体の基本構造と働き）	1前	1			1					兼2	
		解剖生理学Ⅱ（臓器の構造と機能）	1前	1								兼3	
		解剖生理学Ⅲ（人体活動を調整する組織の構造と機能）	1後	1			1	1	1			兼2	
		病理病態学	1後	1								兼1	
		免疫と感染	1後	1								兼1	
	発達心理学	1前	1								兼1		
	健康障害と回復の理解	疾病治療論Ⅰ	2前	1								兼2	
		疾病治療論Ⅱ	2前	1			1					兼2	
		疾病治療論Ⅲ	2後	1								兼6	
		母性疾病治療論	2後	1								兼1	
		小児疾病治療論	2後	1								兼1	
		精神疾病治療論	2後	1								兼2	
		リハビリテーション論	2前		1							兼1	
		臨床栄養学	2前	1								兼1	
	薬理と薬剤	2前	2								兼1		
	健康支援と社会制度	公衆衛生学	2後	2			1						
		社会保障論	2後	2								兼1	
		ヘルスプロモーション論	2後	1			1					兼2	
		看護と法律	3前	1								兼1	
		地域と生活習慣病	3前	1			1						
疫学		3前	2								兼1		
保健統計学		2後		1							兼1		
保健医療福祉行政論		3後		1							兼1		
医療経済学	4後		1							兼1			
基礎看護学	看護学概論	1前	2			1							
	看護展開論	1前	2			1	1	1					
	ヘルスアセスメント論	2前	2			1	2	2					
	基礎看護技術論	1通	4			1	2	2					
	基礎看護学実習Ⅰ	1通	1			2	2	2		2			
	基礎看護学実習Ⅱ	2前	2			2	2	2		2			
人間発達と健康支援	母性看護学	母性看護学概論	2前	2				3					
		母性看護援助論	3通	2				3					
		母性看護学実習	4前	2				3					
	小児看護学	小児看護学概論	2前	2			1		1				
		小児看護援助論	3通	2			1		1				
		小児看護学実習Ⅰ	3後	1			1		1		1		
		小児看護学実習Ⅱ	4前	1			1		1		1		
	成人看護学	成人看護学概論	2前	2					2		0		専任予定教員就任辞退のため(26)
		成人看護援助論Ⅰ（慢性期）	2後	2					1		0		専任予定教員就任辞退のため(26)
		成人看護援助論Ⅱ（急性期）	3通	2					2		0		専任予定教員就任辞退のため(26)
		成人看護学実習Ⅰ	2後	3					1		0	2	専任予定教員就任辞退のため(26)
		成人看護学実習Ⅱ	4前	3					2		0	2	専任予定教員就任辞退のため(26)
老年看護学	老年看護学概論	2前	2			1							
	老年看護援助論Ⅰ	2後	1			1		1					
	老年看護援助論Ⅱ	3後	1			1		1					
	老年看護学実習Ⅰ	3前	1			1		1		2			
老年看護学実習Ⅱ	3後	3			1		1		2				
精神看護学	精神看護学概論	2前	2			1							
	精神看護援助論	3通	2			1		1	1				
	精神看護学実習	3後	2			1		1	1	1			

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	地域・在宅看護学	地域看護学概論	2前	1			1	1					
		在宅看護概論	2後	1				1				兼1	
		在宅看護活動論	3前	1				1				兼1	
		在宅看護援助論	3後	1				1	1			兼1	
		在宅看護論実習	4前	2				1	1		2		
	看護の統合と発展	健康教育論	健康教育論	2後	2			2	1				
			安全管理論	2後	1								兼1
			認知症高齢者ケア	3前		1		1					兼1
			感染看護論	3前		1							兼2
			スキンケア論	3前		1			1				
		看護の統合と発展	緩和ケア論	3後		1			1		0	1	兼1
			救急・災害看護論	4後		1			1				兼2
			国際医療活動	4後		1							
			家族看護学	2前	1			1					
			チーム医療論	3前	1			1		1			兼1
		看護の統合と発展	看護管理論	3後	1								兼1
			看護統合演習	4後	1			5	7	6	2	6	
			統合看護学実習	4後	2			5	7	6	2	6	
			看護研究方法論	3前	1			1	1				
			看護研究Ⅰ	3後	1			6	8	4	1		
看護の統合と発展	看護研究Ⅱ	4通	2			6	8	4	1				
	公衆衛生看護学概論	2後		1		1	1						
	個人・家族・集団・組織の支援論	3前		2		1	1						
	公衆衛生看護活動展開論	3後		1		1	1						
	公衆衛生看護管理論	3後		1		1	1						
専門科目	公衆衛生看護学	公衆衛生看護研究論	4前		1		1	1					
		個人・家族・集団・組織の支援実習	3後		2		1	1		2			
		公衆衛生看護学実習	4通		3		1	1		2			

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成25年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
70	47	0	117	70	47	0	117	
				[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する(資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。)とともに、[]内に、届出時の計画からの増減を記入してください。(記入例:1科目減の場合:△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
-	なし	-	-	-	-	-

- (注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
-	なし	-	-	-	-	-

- (注) ・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	青森中央短期大学 と共用		
	校舎敷地	0㎡	44,043.02㎡	0㎡	44,043.02㎡			
	運動場用地	0㎡	81,712.71㎡	0㎡	81,712.71㎡			
	小 計	0㎡	125,755.73㎡	0㎡	125,755.73㎡			
	そ の 他	0㎡	0㎡	0㎡	0㎡			
	合 計	0㎡	125,755.73㎡	0㎡	125,755.73㎡			
(2) 校 舎	専 用	6,308.00㎡ (6,308.00㎡)	15,206.81㎡ 15,198.70㎡ (15,206.81㎡) (15,198.70㎡)	3,098.82㎡ 3,099.07㎡ (3,098.82㎡) (3,099.07㎡)	24,613.63㎡ 24,605.77㎡ (24,613.63㎡) (24,605.77㎡)	青森中央短期大学 と共用		
	共 用							
(3) 教 室 等	講 義 室	23室	演 習 室 6室	実験実習室 6室	情報処理学習施設 3室 (補助職員 3人)	語学学習施設 1室 (補助職員 0人)	大学全体	
	専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数			
		看護学部			31 室		申請学部全体	
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	青森中央短期大学 と共用
	看護学部	6,956〔782〕 (5,356〔702〕)	59〔18〕 (59〔18〕)	11〔11〕 (11〔11〕)	278 (278)	7,711 (7,711)	50 (50)	
	計	6,956〔782〕 (5,356〔702〕)	59〔18〕 (59〔18〕)	11〔11〕 (11〔11〕)	278 (278)	7,711 (7,711)	50 (50)	
(6) 図 書 館	面 積	2,138.60㎡ 1,725.47㎡		閱 覧 座 席 数 355	収 納 可 能 冊 数 104,000	既存の閉架式書架の面積を 図書館面積として加算した		
	(7) 体 育 館	面 積	924.07㎡ 体育館以外のスポーツ施設の概要 柔道場、ボクシング場、テニスコート、ハンドボールコート、野球場、サッカー場、陸上競技用トラック、多目的運動場					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	9,200千円	2,500千円	2,500千円
	共同研究費等	2,500千円	2,500千円	設備購入費	50,468千円	2,000千円	2,000千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		1,400千円	1,150千円	1,150千円	1,150千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、事業収入等を充当する						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成26年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(26)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称		青森中央学院大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均定員超過率	開年度	所在地	
経営法学部 経営法学科	4年	150人	2年次 20人 3年次 20人	700人	学士 (経営法学)	0.80倍	平成10年度	青森県青森市横内字神田12番地	
看護学部 看護学科	4年	80人	—	320人	学士 (看護学)	1.17倍	平成26年度	同上	
大学院 地域マネジメント研究科	2年	10人	—	20人	修士 (地域マネジメント)	0.90倍	平成16年度	同上	
大学の名称		青森中央短期大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均定員超過率	開年度	所在地	
食物栄養学科	2年	60人	—	120人	短期大学士 (食物栄養学)	1.16倍	昭和46年度	青森県青森市横内字神田12番地	
幼児保育学科	2年	100人	—	200人	短期大学士 (幼児保育学)	0.84倍	昭和49年度	同上	
看護学科	3年	—	—	—	短期大学士 (看護学)	—	平成18年度	同上	平成26年度より 学生募集停止

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部、学科)、大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について、それぞれの学校種ごとに、平成26年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。(ただし、専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

- ・ 「平均定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。
- ・ 大学、短期大学においては学科単位(短期大学において専攻課程を置くときは専攻課程単位)、大学院においては専攻単位で記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	花田 勝美	平成26年4月	生命の科学 解剖生理学Ⅰ (人体の基本構造と働き) 疾病治療論Ⅱ						
専	教授	一戸 とも子	平成26年4月	看護学概論 基礎看護技術論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 健康教育論 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究方法論 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ						
専	教授	三田 禮造	平成26年4月	解剖生理学Ⅲ (人体活動を調整する組織の構造と機能) 公衆衛生学 地域と生活習慣病 国際医療活動						
専	教授	古橋 洋子	平成26年4月	探究の基礎 看護展開論 ヘルスアセスメント論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ						
専	教授	山田 皓子	平成26年4月	探究の基礎 老年看護学概論 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 認知症高齢者ケア チーム医療論 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ						
専	教授	中久喜 町子	平成27年4月	探究の基礎 小児看護学概論 小児看護援助論 小児看護学実習Ⅰ 小児看護学実習Ⅱ 家族看護学 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ						

専	教授	伊藤 ひろ子	平成27年4月	探究の基礎 精神看護学概論 精神看護援助論 精神看護学実習 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ						
専	教授	山本 春江	平成26年4月	ヘルスプロモーション論 地域看護学概論 健康教育論 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ 公衆衛生看護学概論 個人・家族・集団 ・組織の支援論 公衆衛生看護活動 展開論 公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護研究論 個人・家族・集団 ・組織の支援実習 公衆衛生看護学実習						
専	教授	北原 かな子	平成26年4月	英語Ⅰ 英語Ⅱ 医療英語Ⅰ 医療英語Ⅱ 探究の基礎 人間と歴史 グローバル社会と文化						
専	准教授	村山 志津子	平成26年4月	探究の基礎 成人看護学概論 成人看護援助論Ⅰ (慢性期) 成人看護援助論Ⅱ (急性期) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ スキンケア論 緩和ケア論 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ						
専	准教授	西野 加代子	平成26年4月	探究の基礎 母性看護学概論 母性看護援助論 母性看護学実習 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ						
専	准教授	秋庭 由佳	平成26年4月	探究の基礎 看護展開論 ヘルスアセスメント論 基礎看護技術論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ						

専	准教授	三國 裕子	平成26年4月	探究の基礎 解剖生理学Ⅲ (人体活動を調整する組織の構造と機能) ヘルスアセスメント論 基礎看護技術論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ						
専	准教授	木村 千代子	平成26年4月	探究の基礎 成人看護学概論 成人看護援助論Ⅱ (急性期) 成人看護学実習Ⅱ 救急・災害看護論 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ						
専	准教授	高橋 佳子	平成26年4月	探究の基礎 母性看護学概論 母性看護援助論 母性看護学実習 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ						
専	准教授	玉熊 和子	平成26年4月	探究の基礎 母性看護学概論 母性看護援助論 母性看護学実習 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究方法論 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ						
専	准教授	鎌田 明美	平成26年4月	探究の基礎 地域看護学概論 在宅看護概論 在宅看護活動論 在宅看護援助論 在宅看護論実習 健康教育論 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ 公衆衛生看護学概論 個人・家族・集団・組織の支援論 公衆衛生看護活動展開論 公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護研究論 個人・家族・集団・組織の支援実習 公衆衛生看護学実習						
専	講師	泉 美紀子	平成26年4月	探究の基礎 在宅看護援助論 在宅看護論実習 看護統合演習 統合看護学実習						

専	講師	藤澤 珠織 (岡本珠織)	平成26年4月	探究の基礎 解剖生理学Ⅲ (人体活動を調整 する組織の構造と 機能) ヘルスアセスメント論 基礎看護技術論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護統合演習 統合看護学実習						
専	講師	松島 正起	平成26年4月	探究の基礎 看護展開論 ヘルスアセスメント論 基礎看護技術論 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ						
専	講師	中川 孝子	平成26年4月	探究の基礎 老年看護援助論Ⅰ 老年看護援助論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ チーム医療論 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ						
専	講師	谷川 涼子	平成27年4月	探究の基礎 小児看護学概論 小児看護援助論 小児看護学実習Ⅰ 小児看護学実習Ⅱ 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ						
専	講師	小松 容子	平成26年4月	探究の基礎 精神看護援助論 精神看護学実習 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ						家庭の事情のため、 就任が遅延 (26)
専	助教	高階 淳子	平成26年4月	探究の基礎 成人看護学概論 成人看護援助論Ⅰ (慢性期) 成人看護援助論Ⅱ (急性期) 成人看護学実習Ⅰ 成人看護学実習Ⅱ 緩和ケア論 看護統合演習 統合看護学実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ				後任未定		平成26年1月 高階淳子講師就任辞退 (26) 平成27年4月から専任教員 採用予定で公募中。「探 究の基礎」は、他に担当教 員がいるため、支障はな い。
専	助教	大山 一志	平成26年4月	精神看護援助論 精神看護学実習 看護統合演習 統合看護学実習						

兼任	講師	小侯 勝治	平成27年4月	暮らしと法律						
兼任	講師	高橋 興	平成27年4月	人間と教育						
兼任	講師	内山 清	平成27年4月	現代社会の諸相						
兼任	講師	塩谷 未知	平成26年4月	生命の科学						
兼任	講師	鈴木 克成	平成26年4月	人間と存在						
兼任	講師	吉原 正彦	平成28年4月	人間関係とリーダーシップ						
兼任	講師	高山 貢	平成26年4月	暮らしと経済						
兼任	講師	大泉 常長	平成27年4月	防災と危機管理						
兼任	講師	森田 学	平成26年4月	調査と統計						
兼任	講師	木村 隆雄	平成27年4月	情報処理Ⅰ (情報リテラシー) 情報処理Ⅱ (実務の活用法) 情報処理Ⅲ (Excelの応用)						
兼任	講師	奥村 俊樹	平成26年4月	人間と健康						
兼任	講師	スティーブン・マック ウィニー	平成27年4月	英語Ⅲ 英語Ⅳ						
兼任	講師	顧 偉良	平成26年4月	中国事情と言語						
兼任	講師	安 明洙	平成26年4月	韓国事情と言語						
兼任	講師	トルストグー ソフ・A	平成27年4月	ロシア事情と言語						
兼任	講師	成田 成美	平成26年4月	発達心理学 人間と心理						
兼任	講師	木村 純二	平成27年4月	人間と宗教						
兼任	講師	前田 美樹	平成27年4月	人間と芸術						
兼任	講師	鈴木 廣	平成27年4月	人間と芸術						
兼任	講師	宮田 篤	平成27年4月	人間と文学						
兼任	講師	白取 春彦	平成27年4月	人間と倫理						
兼任	講師	石橋 嘉一	平成26年4月	対人コミュニケーションⅠ 対人コミュニケーションⅡ						
兼任	講師	佐々木 俊介	平成26年4月	暮らしと地域						
兼任	講師	三浦 圭介	平成26年4月	縄文と現代						
兼任	講師	伊藤 弓月	平成27年4月	社会と福祉						
兼任	講師	佐原 雄二	平成26年4月	自然の生態系						
兼任	講師	佐藤 和弘	平成26年4月	自然と生物						
兼任	講師	棟方 秀和	平成26年4月	自然と化学 解剖生理学Ⅰ (人体の基本構造と働き)						
兼任	講師	阿布 里提	平成27年4月	自然とエネルギー						

兼任	講師	三上 泰徳	平成26年4月	解剖生理学Ⅱ (臓器の構造と機能) 疾病治療論Ⅰ							
兼任	講師	梶原 祐策	平成26年4月	解剖生理学Ⅱ (臓器の構造と機能) 疾病治療論Ⅰ							
兼任	講師	津久井 厚	平成26年4月	解剖生理学Ⅱ (臓器の構造と機能) 疾病治療論Ⅱ							
兼任	講師	柿崎 幸雄	平成26年4月	解剖生理学Ⅲ (人体活動を調整する組織の構造と機能) 疾病治療論Ⅲ							
兼任	講師	秋山 昌弘	平成27年4月	疾病治療論Ⅱ							
兼任	講師	円山 宏洋	平成26年4月	疾病治療論Ⅲ 解剖生理学Ⅲ (人体活動を調整する組織の構造と機能)	兼任	講師	太田 修司	平成26年4月	疾病治療論Ⅲ 解剖生理学Ⅲ (人体活動を調整する組織の構造と機能)	平成26年3月 円山宏洋講師辞退のため 平成26年度より担当者の 変更(26)	
兼任	講師	馬場 正之	平成27年4月	疾病治療論Ⅲ							
兼任	講師	西島 美知春	平成27年4月	疾病治療論Ⅲ							
兼任	講師	増田 光男	平成27年4月	疾病治療論Ⅲ							
兼任	講師	権 昭致	平成27年4月	疾病治療論Ⅲ							
兼任	講師	鬼島 宏	平成26年4月	病理病態学							
兼任	講師	古川 賢一	平成26年4月	免疫と感染							
兼任	講師	鍵谷 昭文	平成27年4月	母性疾病治療論							
兼任	講師	越浪 正仁	平成27年4月	小児疾病治療論							
兼任	講師	平野 敬之	平成27年4月	精神疾病治療論 認知症高齢者ケア							
兼任	講師	村上 拓也	平成27年4月	精神疾病治療論							
兼任	講師	川口 徹	平成27年4月	リハビリテーション論							
兼任	講師	舩澤 正博	平成27年4月	臨床栄養学							
兼任	講師	川村 仁	平成27年4月	薬理と薬剤							
兼任	講師	渡部 誠	平成27年4月	社会保障論							
兼任	講師	島内 憲夫	平成27年4月	ヘルスプロモーション論							
兼任	講師	鈴木 美奈子	平成27年4月	ヘルスプロモーション論							
兼任	講師	田中 幸子	平成28年4月	看護と法律							
兼任	講師	伊藤 治幸	平成27年4月	保健統計学 疫学							
兼任	講師	奈良岡 裕次	平成28年4月	保健医療福祉行政論							
兼任	講師	大久保 一郎	平成29年4月	医療経済学							
兼任	講師	細川 満子	平成27年4月	在宅看護概論 在宅看護活動論 在宅看護援助論							

兼任	講師	佐藤 史枝	平成28年4月	チーム医療論							
兼任	講師	岩井 郁子	平成28年4月	看護管理論							
兼任	講師	大川 浩文	平成29年4月	救急・災害看護論							
兼任	講師	河瀬 亨哉	平成29年4月	救急・災害看護論							
兼任	講師	矢野 久子	平成28年4月	感染看護論							
兼任	講師	福井 幸子	平成28年4月	感染看護論							
兼任	講師	小枝 淳一	平成28年4月	緩和ケア論							
兼任	講師	玉澤 直樹	平成26年4月	解剖生理学Ⅰ (人体の基本構造と働き)	兼任	講師	小川 克弘	平成26年4月	解剖生理学Ⅰ (人体の基本構造と働き)	平成25年3月 玉澤直樹講師辞退のため 平成26年度より担当者の 変更(26)	
兼任	講師	砂田 弘子	平成27年4月	安全管理論							

- (注) ・ 申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 なお、当該設置に係る学部、学科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、(〇〇学部 △△学科)の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成26年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・ 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数

設置時の計画					変更状況					年齢構成	
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計	定年規定の定める定年年齢	定年を延長している教員数
9	8	6	2	25	9	8	6	1	24	教授 70歳 准教授 65歳 その他 60歳	4
(7)	(8)	(5)	(2)	(22)	[-]	[-]	[-]	[△1]	[△1]		名

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成26年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
 との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)
 および、平成26年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1	助教	高階 淳子	自己都合による就任辞退
2	講師	小松 容子	自己都合による就任遅延

- (注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任（就任辞退を含む）等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

1. 助教 高階淳子氏について
当該教員の平成26年度の担当科目については、複数の教員を充てており、初年度は審査済みの専任教員で対応が可能である。次年度以降に向けて今年度中に後任を公募し補充していく。 なお、当該教員担当の専門科目は平成27年度以降の開講のため、学生の履修等への影響はなく、特に学生への周知の必要はない。
2. 講師 小松容子氏について
当該教員の平成26年度の担当科目については、複数の教員を充てており、初年度は審査済みの専任教員で対応が可能である。 なお、当該教員担当の専門科目は平成27年度以降の開講のため、学生の履修等への影響はなく、特に学生への周知の必要はない。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (25年10月)	1. 各看護学実習において臨地実習指導者の資格要件を設けており、老年看護学実習の臨地実習指導者については准看護師も想定しているが、4年制大学における看護師養成の意図を踏まえ、資格要件を改めること。	老年看護学実習の臨地実習指導者の資格要件を改めるとともに、実習施設を、老年看護学実習が開始される平成28年度までに要件を満たす施設に変更するよう検討している。	
	2. 教員の補充を必要とされた2授業科目については、科目開設時までには教員を充足すること。	教員の補充を必要とされた「在宅看護概論」「在宅看護活動論」の2科目について、授業担当の条件を満たす教員を兼任で求めるべく現在対応中である。	
	3. 完成年度前に、定年規定に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規定の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について着実に実行すること。	<p>教育研究の持続性を確保する意味から、より均衡のとれた教員構成としていく計画である。</p> <p>そのために、次のような方針のもとに若返りを図っていく予定である。</p> <p>①完成年度を待って、教育力及び研究力のある30～50歳代前半の若手教員を公募制により採用する。</p> <p>②本学に在籍する若手の准教授・講師・助教を育てて昇任できるようにする。</p> <p>中でも、上記②を達成するため、次のような施策を行っている。</p> <p>1. 教育研究能力向上のため、教授陣による若手教員・助手の指導（研究会）を行っている。</p> <p>2. 自宅研修制度を設け、教員・助手の研究時間の確保や学位取得のための時間的支援をしている。</p> <p>3. 研究の活性化のために、個人研究費については、職位による差異をつけていない。また、共同研究の促進のため共同研究費を設けている。</p> <p>4. 競争的資金獲得のための研修会の開催を計画している。</p>	

(注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
なし	なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

教員の資質維持、向上を目的として、青森中央学院大学FD委員会を、また、教員の研究の支援・推進を目的として研究推進委員会を設置し、全学に関わる教育内容の改善と研究力向上に向けた取り組みを行うこととしている。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

◇FD委員会：大学の経営法学部、看護学部から委員を配置。内訳は教授1名、准教授2名、講師1名、助教1名、事務局長、事務職員1名。開催頻度は月1回定例とする。

◇研究推進委員会：大学の経営法学部、看護学部から委員を配置。内訳は教授5名、准教授2名、講師1名、助教1名、事務局長、事務職員2名。開催頻度は月1回定例とする。

c 委員会の審議事項等

◇FD委員会所管事項（参考資料1：FD委員会規程）

- (1) 授業内容、授業方法の改善・向上に関する事項
- (2) FDに関する研修会の計画・実施・参加に関する事項
- (3) 授業評価アンケートの実施とその検討に関する事項
- (4) 教員の授業改善・向上に関する事項
- (5) その他FD活動に関する事項

◇研究推進委員会所管事項（参考資料2：研究推進委員会規程）

- (1) 研究活動の連携、推進及び支援に関する事項
- (2) 教員の研究業績の把握と公表に関する事項
- (3) 産学共同研究等の振興に関する事項
- (4) 共同研究費の配分に関する事項
- (5) 科学研究費等の競争的研究資金獲得の支援に関する事項
- (6) 研究紀要の審査・編集に関する事項
- (7) その他研究推進に関する事項

② 実施状況

a 実施内容

◇FD委員会、研究推進委員会を4月に開催し、今後の事業計画を策定した。

（参考資料3：FD委員会事業計画、参考資料4：研究推進委員会事業計画）

計画の中で主たるものは、

- ・FD先進校の視察と学内FD活動へのフィードバック
- ・山形大学を中心とするFDネットワーク”つばさ”主催活動への積極参加
- ・外部講師を招聘し実施するFD研修会の開催
- ・年間FD活動報告書の作成
- ・新任教員研修会（座談会）の開催

・研究力向上を目指した各種研究会の組織と開催
・紀要「青森中央学院大学研究紀要」の発行(年2回) などである。
なお、以上のうち、新任教員研修会については2014年4月15日に実施した。

b 実施方法

・新任教員研修会については、新任教員からFD活動等に関する質問を募り、FD委員がそれに回答する座談会形式で実施した。

c 開催状況(教員の参加状況含む)

新任教員研修会には新任教員全8名のうち7名が参加した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

年間計画については、実施後に各教員の取組状況について評価することとなるが、すでに実施済みの新任教員研修会については、参加した教員から好評を得ており、次年度以降も継続して実施し、本学のFD活動等について、理解を深め、参加を促すきっかけとしていきたいと考えている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

各学期末に実施予定

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員へは、全体平均と教員個人の評価点が見える結果シートを配布予定である。学生の自由記述に対しては、教員がコメントを作成し、フィードバックを行う。また全体の結果については、山形大学のFDネットワーク「つばさ」年報上で公開される予定である。

(注) ・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

・本看護学部は、平成26年4月に開設したところであり、教育内容についての自己点検・評価については、来年度以降取りまとめることとなる。入学者の選抜については、入学定員80名に対し学部設置認可後の限られた広報期間でありながら、志願者が284名と志願倍率が3倍を超えた。入学者は県内出身75名、県外出身19名と県内出身者が多く、地域からの期待の高さを窺うことができ、設置の趣旨・目的の一つである地域貢献に寄与できるものと思われる。

・合格者の中からの辞退者が予想より低く、入学者が定員を超えた。これは複数の高等教育機関に合格した受験生が、本学を選び入学してきたということであり、志願者からの期待の高さを感じることができた。次年度以降については、今年度の入学状況を基に、合格者数を設定していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

・今年度の実績をもとに、平成27年6月公表予定。

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を刊行し、各関係機関に配布予定。
・大学ホームページ上に公開予定(平成27年8月末を予定)

③ 認証評価を受ける計画

・平成28年度に評価機関(日本高等教育評価機構)の評価を受ける計画である。

- (注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期(未公表の場合は予定時期) (平成 26 年 6 月 末)